

5月もうすぐ終わり。ゆうゆうと泳いでいた大きな鯉のぼりも今年は見納めになります。

4月に入学してきたかわいい小学部一年生の四名もすっかり学校生活に慣れ、勉強に運動に、そして先日まで6回の水泳学習も頑張りました。中学部の新一年生は、新しく2名が加わり総勢5人になってとても賑やかなG7です。是非G8とともに学校の中心として頑張りたいと思います。もちろん他の学年も一つずつ学年が上がって活発な日々を送っています。

私もアブダビに来てひと月半、やっと生活にも慣れてきて少し心にもゆとりができましたので、日本の学校時代もペルーの日本人学校時代も出していた、この「サザンクロス」を今日から出します。

頭に浮かんだこと、気づいたこと等思いつくままに書きますので、校長の独り言と思って、気楽にお読みください。



家庭における子育て等で、「こんな叱り方はダメ」とか「こんなほめ方を」とよく言われます。我々大人もよく分かっているつもりなのですが、なかなか言葉に出さない、特にほめる言葉が出てこないものです。叱るよりもほめる方が子どもは伸びる場合があります。

かく言う私も苦い思い出があります。今はもう大人の長女が小学校低学年の時テストで悪い点を取りました。父親の私にそのテストを見せようかドキドキ迷っていたところ、妻が「パパに見せなさい。きっと叱らないよ」と言い、娘は勇気を出して私に見せました。私はその時、ほめようか叱ろうか迷って、結局叱る方を選んでしまったのです。

今でも昨日のこのように思い出します。妻には「あの子は勇気を出して言ったのに」と言われるし、今も娘は思い出す度に「あの時はやる気をなくした」と言うし…。あの時ほめておけば良かったと今でも後悔しています。タイミングが難しいですね。



さて、いくつかの書物に「こんな言葉がやる気につながる」と思われる言葉掛けがありましたので、ご参考になれば幸いです。

子育て名言禁言

- ★ 『ありがとう、助かったよ』(誰かのためにやったことを伝え感謝する)
 大人と同じく子どもも誰かに認められたい、必要な人間でありたいと思っています。親や教師に感謝され、自分の存在が認められていることを、子どもに具体的に分かりやすく伝えてやることは、子どもの大きな自信につながり、自尊心も育っていくと思われま。
- ★ 『ここがよくてきたね』(よい点を具体的にほめる)
 ほめる時も叱る時も簡潔に具体的に分かり易く伝えることが大切です。何かをほめる時は「どこが、どう良かったか」を伝えましょう。そうすれば決してそのことがお世辞でないと感じ、努力した点がはっきりし、自覚的になっていくことでしょう。
- ★ 『ほめるのは今』
 「ありがとう」「よくてきたね」の言葉掛けの時に、結果が満点でなくても、努力したことであれば、その時点で素直にそのことを認めてあげましょう。「もう少しできたら」「もっとできるはず」等と要求を高くしていたら、「ほめる」「認める」チャンスを失ってしまいます。即座にほめてあげましょう。

